

浜松市で毎年開催され、今回初めて静岡文化芸術大学の学生が運営に協力した「もくもくまつり」でイベント内容を考え、木の年輪オブジェ製作や空間づくりに取り組んだ。デザイン学科建築・環境領域3年。愛知県岡崎市出身。21歳。

「当日の盛り上がりは、開始直後からたくさんの方が来場してくれた。親子連れも多く、林業関係者にも来てもらった。毎年来てくれる方から『これまでと手法が変わり、新鮮だった』と感心してもらえた」と。

「思い出に残っていることは。」

木の魅力を発信するイベントを企画した

ひらぐち あきなさん (中区城北)  
**平口 晃名**



## この人

「双葉の形をした木の板に、生まれてから今までで一番印象に残っていることを書いてもらうコーナーで『今日が一番楽しかった』と書いてくれた子どもがいた。良い思い出を持ち帰ってくれてうれしかった」

「工夫した点は。」

「大学の講義室に本物の

木を搬入してゲームの迷宮のような空間にした。これまででは木工体験が主体だったため、クイズを取り入れ楽しみながら林業を学べる点を意識した。年輪オブジェ前で撮った写真入り木製フォトフレームも贈った」

「林業に対する印象の変化は。」

「林業家から話を聞く中で、自分が植えた木は自分の世代では切らず、次世代につなぐなど壮大な仕事だと初めて知った」

◇ 趣味は車で伊豆や長野などの温泉巡り。